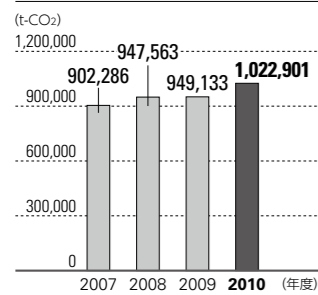
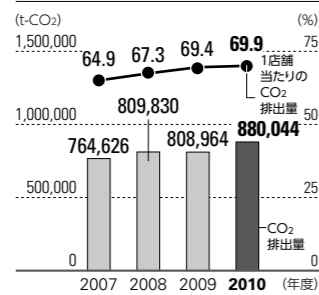


環境関連データ

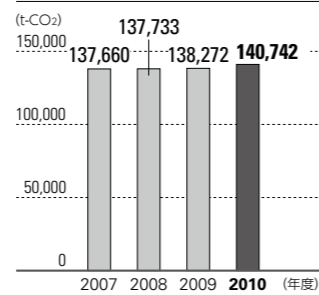
CO₂排出量※1※2



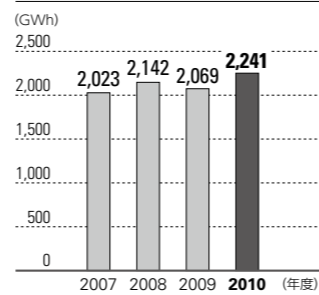
店舗運営にともなうCO₂排出量※2



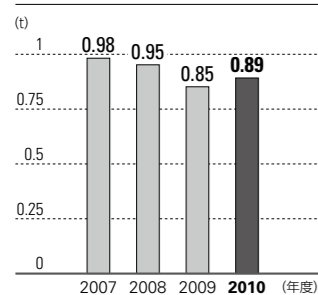
物流にともなうCO₂排出量※3



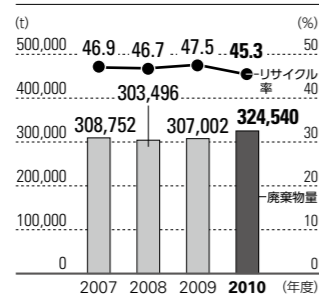
店舗運営にともなう電気使用量※2



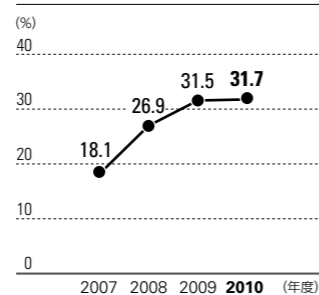
1店舗当たりのレジ袋使用重量



廃棄物量・リサイクル率※4



食品廃棄物のリサイクル率※5



補足

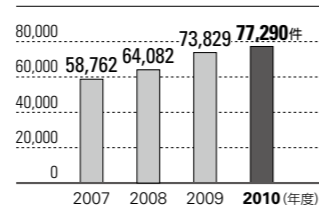
※1 2007年度・2008年度は店舗運営と物流(配送センターの運営および配送車両の燃料使用)にともなうエネルギー使用に由来するCO₂排出量。2009年度以降は店舗運営・物流・本部・研修センター・地区事務所にもなうエネルギー使用に由来するCO₂排出量。
 ※2 2007年度・2008年度の電気使用量は1店舗当たりの平均電気使用量から総量を推計して算出。2009年度は、当社で直接電気使用量を把握できない一部店舗を除いた電気使用量の合計値。2010年度は電気使用量が把握できない店舗は推計値を用いて算出。
 ※3 配送センターの運営および配送車両の燃料使用にともなうCO₂排出量。

※4 東京都内店舗の排出量より推計して算出。集計期間は1月～12月。なお食品廃棄物量については、※5の基準で算出しました。
 ※5 2007年度は東京都内店舗の排出量よりリサイクル率を推計して算出。集計期間は1月～12月。2008年度以降は「食品リサイクル法」の実績報告に基づいて算出。集計期間は4月～3月。
 なお、2009年度以降のCO₂排出量は、「セブン&アイHLDGS.グループ共通CO₂排出量算定マニュアル」に沿って算出しています。これにともない、燃料種類ごとのCO₂排出係数を2008年度以前とは一部変更しています。

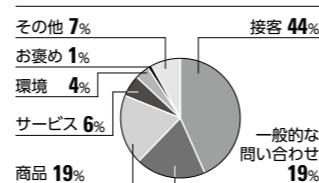
お客様相談受付関連データ

2010年7月にID導入、さらに9月にはクレジットカードの取り扱い種類が増加し、2011年3月にはスイカなど交通系電子マネーの取り扱いが開始されました。また、マルチコピーでBIG、totoの取り扱いも可能になり、お客様に便利なサービスが提供できるようになりました。お客様よりいただく苦情はレジ接客を含むセールスカウンター周辺で多く発生しています。2011年5月から「加盟店従業員レジ接客研修(シフトリーダーコース)」を開設し、従業員の接客教育支援を開始しました。こうしたことにより、増加し続ける苦情を削減することをめざしています。

受付件数



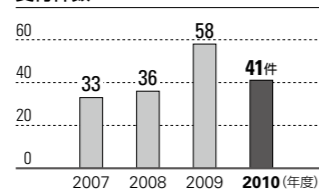
相談内容の内訳(2010年度)



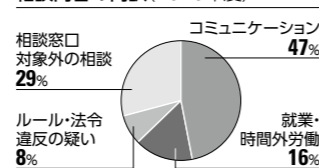
従業員相談受付関連データ

2010年度の通報内容は、職場におけるコミュニケーション不足が理由となる通報が多く見受けられました。CSRの理解を高める社員教育の実施開始に向けて、2010年度は「教育委員会」を新設しました。2011年度には、DVDを使用した社員教育プログラムの検討や、コンプライアンス意識を向上させるための取り組みを開始するなど、CSRの体制整備を行います。

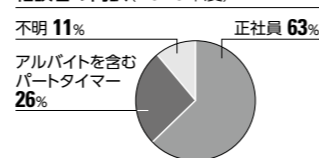
受付件数



相談内容の内訳(2010年度)

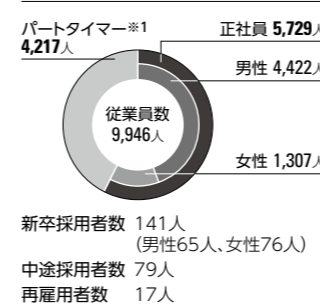


相談者の内訳(2010年度)



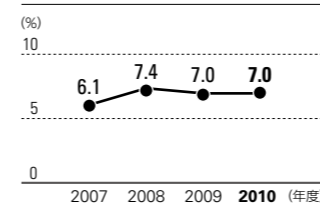
人事関連データ

従業員数の内訳(2011年2月末)

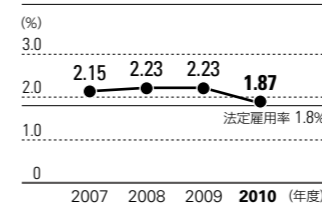


	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
正社員平均勤続年数	7年6カ月	7年10カ月	8年4カ月	9年0カ月
正社員育児休業取得者数	25人	29人	40人	45人
うち男性	0人	0人	0人	0人
正社員介護休業取得者数	3人	1人	0人	0人
うち男性	2人	1人	—	—
ボランティア休暇取得者数	制度なし	3人	1人	1人

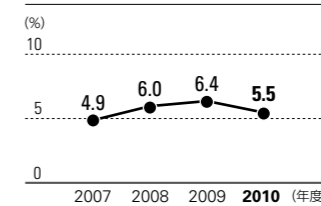
女性管理職比率※2



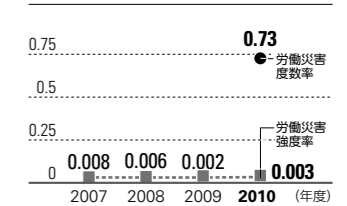
障がい者雇用率※3



正社員有給休暇取得率※4



労働災害度数率・強度率※5



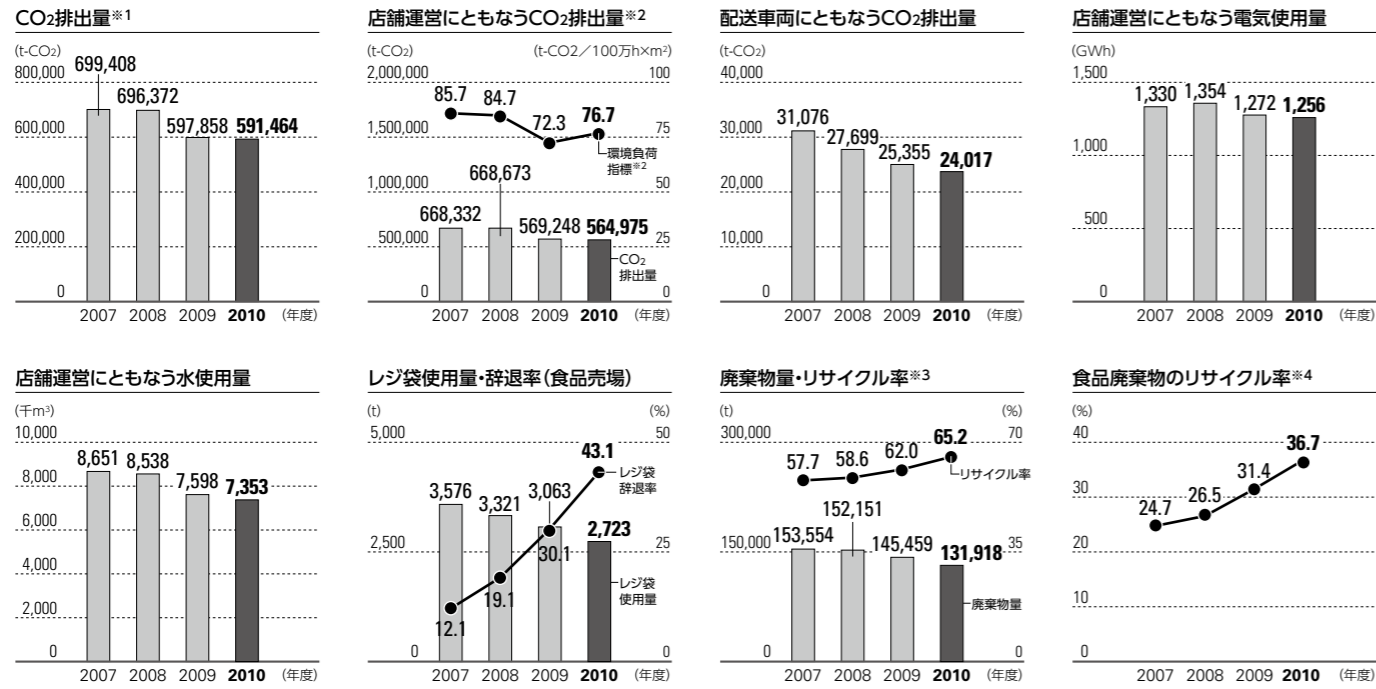
補足

※1 直営店で勤務しているパート・アルバイトの人数(1日8時間換算による月平均人員)。
 ※2 役員を除く。
 ※3 年度の数値は翌年度の6月1日現在の数値。セブン&アイHLDGS.、テルベ(重度障がい者が働く特例子会社)、セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカドー、セブン&アイ・フードシステムズ5社によるグループ雇用率を適用。2010年7月の法改正にともない、2010年度から算出方法を変更しました。
 ※4 前年度繰越分は含まない。
 ※5 労働災害年度度数率は2010年度のみ。

主な社会貢献活動

- セーフティステーション活動(P37参照)
未成年者に対する酒類・たばこの販売防止のため、販売時の年齢確認を徹底するPOPの掲出やレジの音声案内などといった取り組みを実施。
- 職場体験学習の受け入れ(P35参照)
地域の小・中学生にとって身近な小売店であることから、店舗での就労体験や見学の要請に可能な限り対応。また、本部では受け入れを円滑に行うための資料などを用意。2010年度は5,767店で実施。
- 一般財団法人 セブン-イレブン記念財団への協力(P21参照)
セブン-イレブン店舗で募金箱を設置し、その募金総額に応じて寄付(マッチングギフト)。2010年度は7,673万5,190円を寄付。
- 東京マラソンへの協賛
スポーツ支援として、東京マラソンに協賛。協賛金の提供だけでなく、ブースの出店や完走者へのおにぎり配布への協力なども実施。
- 「臓器提供意思表示カード」の設置
社団法人 日本臓器移植ネットワークに協力し、意思表示カードのカatalogスタンドを設置。

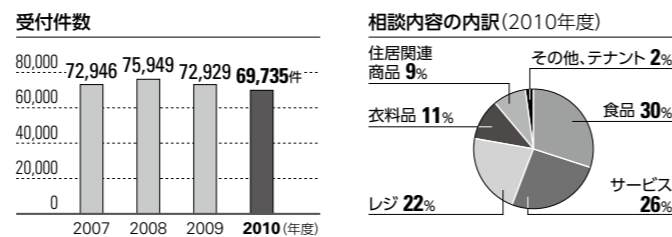
環境関連データ



補足
 ※1 2007年度・2008年度は店舗運営と配送車両にともなうエネルギー使用に由来するCO₂排出量。2009年度以降は店舗運営・本部・研修センター・物流センターの運営と配送車両にともなうエネルギー使用に由来するCO₂排出量。
 ※2 (総営業面積×営業時間)当たりのCO₂排出量。
 ※3 集計期間は1月～12月。
 ※4 2008年度以降は「食品リサイクル法」の計算方法を用いて算出。集計期間は4月～3月。なお、2009年度以降のCO₂排出量は、「セブン&アイHLDGS.グループ共通CO₂排出量算定マニュアル」に沿って算出しています。これにともない、燃料種類ごとのCO₂排出係数を2008年度以前とは一部変更しています。

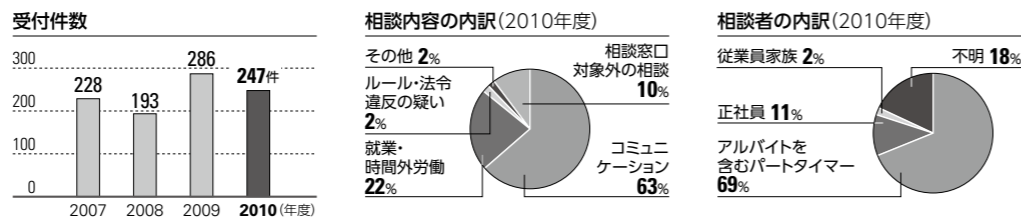
お客様相談受付関連データ

2008年度から重点課題として、お客様のご指摘内容の発生原因の分析と改善に向けた取り組みを店舗と本部が連携して進めています。その結果、2010年度の承り件数は、3年連続で減少しました。しかしながら「サービス」に関するご意見は2010年度も全体の26%を占め、高い割合となっています。2011年度はさらなる件数削減に向けて、特に「サービス」に関するご指摘の削減をめざして取り組みを進めます。

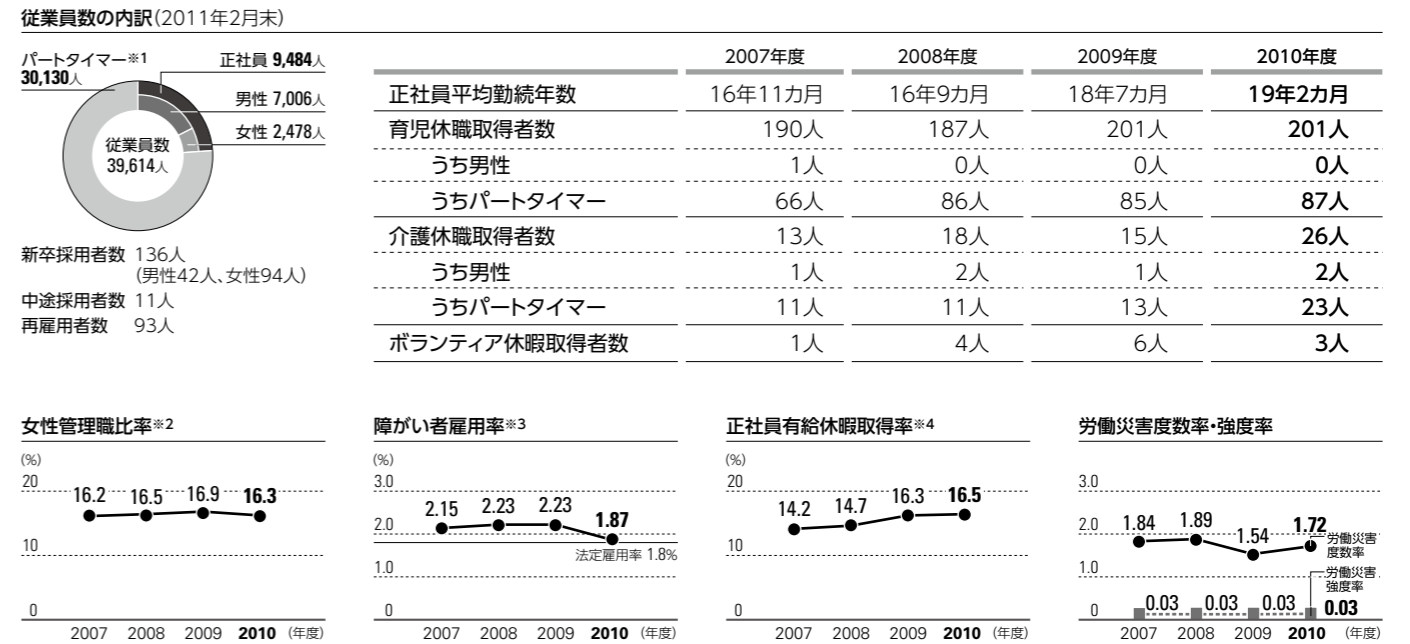


従業員相談受付関連データ

2010年度は、新入社員や新任役職者997人を対象にコンプライアンス研修を実施しました。従業員からの相談内容は、職場でのコミュニケーションに関するものが増加傾向にあることから、2011年度は特に役職者の意識向上のための研修を強化していきます。



人事関連データ

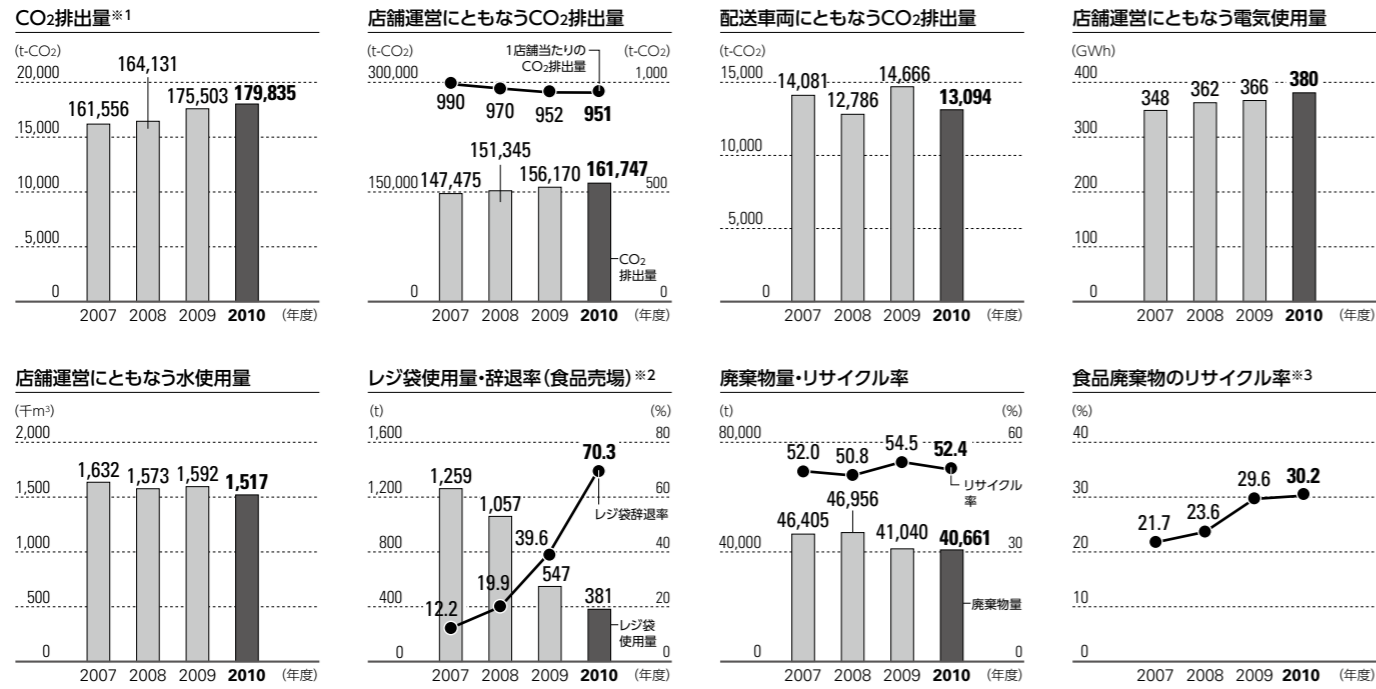


補足
 ※1 1日8時間換算による月平均人員。
 ※2 役員を除く。
 ※3 年度の数は翌年度の6月1日現在の数値。セブン&アイHLDGS.、テルベ(重度障がい者が働く特例子会社)、セブン-イレブン・ジャパン、イトーヨーカ堂、セブン&アイ・フードシステムズ5社によるグループ雇用率を適用。2010年7月の法改正にともない、2010年度から算出方法を変更しました。
 ※4 前年度繰越分は含まない。

主な社会貢献活動

- マタニティ・育児相談室の運営 (P34参照)
2011年2月末の設置店舗数は124店舗。相談受付件数は延べ279,033件。イベント参加者数は延べ6,108家族。
- エコ&UDコーナーの設置と体験学習会の開催 (P14参照)
アリオ鳳・武蔵小金井店・アリオ北砂・アリオ橋本内に、「地球にやさしく・人にやさしく」をテーマとした「エコ&ユニバーサルデザイン」コーナーを設置。コーナー内では、イトーヨーカ堂の省エネルギー・リサイクル・再使用・自然エネルギーに関する取り組みをパネルや映像などで紹介。アリオ鳳では堺市教育委員会と連携して、地元の小学生向けの体験学習会を開催。2010年度は182人の小学生が参加。
- セブン&アイ アベスコ基金 (P36参照)
特定の自動販売機の収益を利用して、国際人道支援活動などに取り組む団体に寄付。2010年度は500万円を寄付。
- ランドセルの売上げの一部をタイの小学校建設に寄付 (P36参照)
「公益財団法人プラン・ジャパン」に300万円を寄付。

環境関連データ



補足

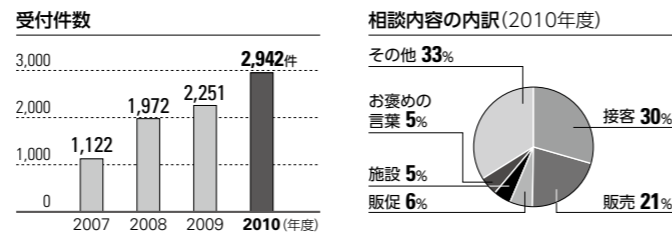
※1 2007年度・2008年度は店舗運営と配送車両にともなうエネルギー使用に由来するCO₂排出量。2009年度以降は店舗運営・本部・研修センター・物流センターの運営と配送車両にともなうエネルギー使用に由来するCO₂排出量。

※2 2009年度まではエコスタンプカードの回収枚数に基づいて算出。2010年度はレジ袋の辞退者数に基づいて算出する方法を変更しました。

※3 2008年度以降は「食品リサイクル法」の計算方法を用いて算出。集計期間は4月～3月。なお、2009年度以降のCO₂排出量は、「セブン&アイHLDGS.グループ共通CO₂排出量算定マニュアル」に沿って算出しています。これにともない、燃料種類ごとのCO₂排出係数を2008年度以前とは一部変更しています。

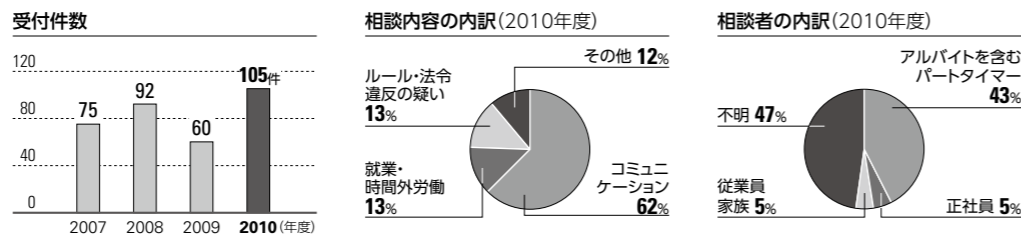
お客様相談受付関連データ

2010年度はお客様の声に耳を傾け、一つひとつの声に応じていく取り組みとして、各店のお客様の要望に応えた事例の全店への拡大やご意見によってはお店と本部とが連携をし、よりスピーディーに回答できることをめざして取り組みました。その結果、日を追うごとにお客様から「すぐに対応してくれてありがとう」とお褒めの言葉が多く寄せられるようになりました。2011年度もこうした取り組みを継続することで、一つでも多くのご意見を業務に取り入れながら、楽しく、安心してお買物できるお店づくりに努めていきます。

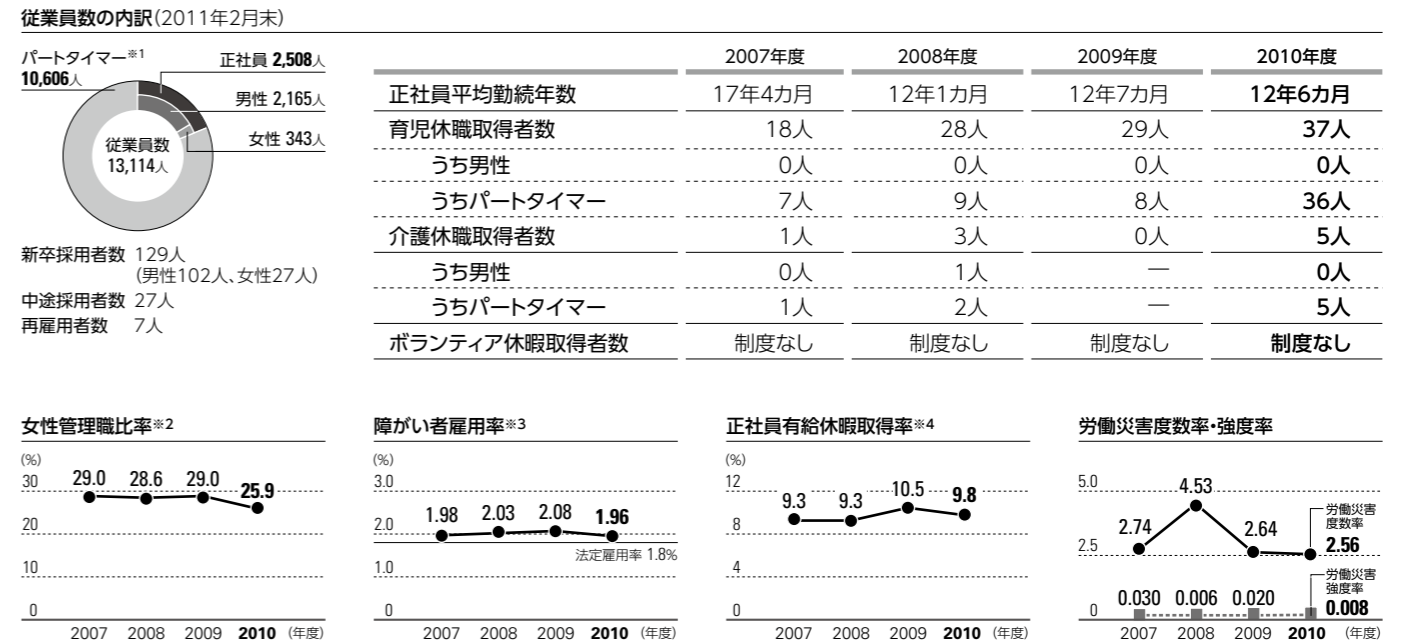


従業員相談受付関連データ

2010年度はヘルプラインの運用状況をほぼ週1回本部幹部に報告。また年2回開催している「リスク部会」(業務系の役員と総括マネージャーが参加する社内組織)のなかでも報告しました。2011年度は企業行動委員会を中心とした、迅速で的確な相談対応をめざします。また外部の情報を積極的に収集することで、社会通念と会社の常識に乖離がないように努めていきます。



人事関連データ



補足

※1 1日8時間換算による月平均人員。

※2 役員を除く。

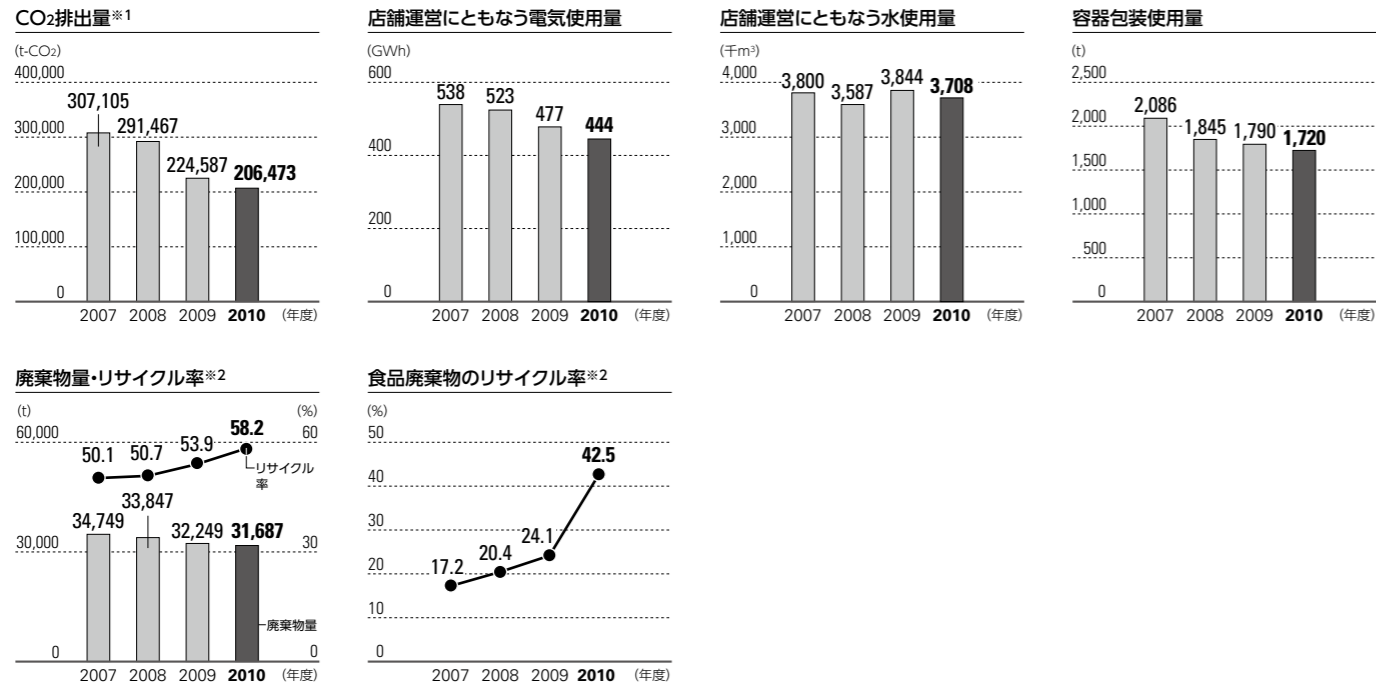
※3 2010年7月の法改正にともない、2010年度から算出方法を変更しました。

※4 前年度繰越分は含まない。

主な社会貢献活動

- 子どもたちへの食育活動(P35参照)
2010年度は「キッズファーム」を9回開催。合計26組、87人が参加。
- 「誕生祭」の開催
店舗が開店した月を誕生月として、店ごとに地域のお客様への感謝を込めて各種イベントを実施。
- 献血運動
(株)ヨークベニマルとヨークベニマル労働組合は、毎年10月に開催されている献血イベント「ハートフルサタデー」の事務局を担当。
- ちびっこ健康マラソン
1989年から毎年福島県内の小学生を対象に、エスピー食品と共同でマラソン大会を開催。2010年度は886人が参加。
- (財)ヨークベニマル文化教育事業財団
(財)ヨークベニマル文化教育事業財団は、青少年の国際性を養成するために、海外への派遣事業などを通じた国際交流活動を展開。(株)ヨークベニマルは、財団活動の事務局運営を担い、永続的な事業活動に努めています。

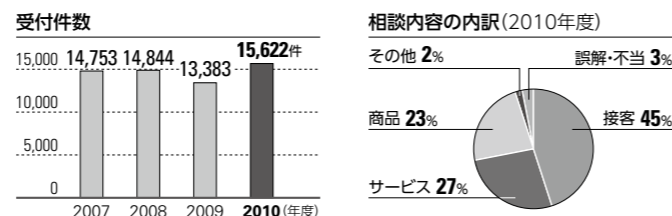
環境関連データ



補足
2009年度以降はロビンソンを含む。
※1 2007年度・2008年度は店舗運営にともなうエネルギー使用に由来するCO₂排出量。2009年度以降は店舗運営・本部・物流センターの運営にともなうエネルギー使用に由来するCO₂排出量。
※2 2009年度以降もロビンソンを含まない。
なお、2009年度以降のCO₂排出量は、「セブン&アイHLDGS.グループ共通CO₂排出量算定マニュアル」に沿って算出しています。これにともない、燃料種類ごとのCO₂排出係数を2008年度以前とは一部変更しています。

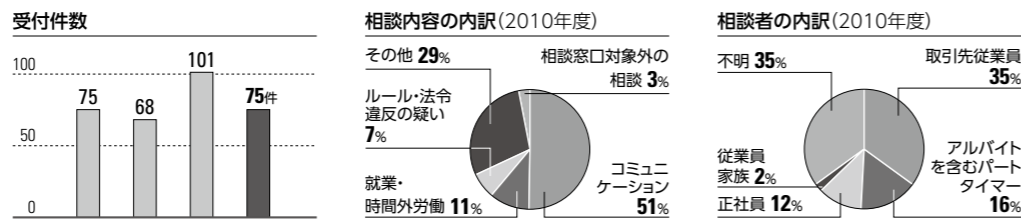
お客様相談受付関連データ

2010年度は、本部顧客サービス部にカスタマーセンターを設置し「お客様の声」を企業活動に活用する取り組みを強化しました。各店のお客様相談窓口寄せられた声を収集・分析し、接客のレベル向上・商品の品揃え、付帯サービス、施設の改善に活用しました。また、店頭のお客様の声や購買動向を「販売メモ」で収集し、今後の品揃えや販売体制の仮説構築を行うという活動を全店で強化しました。2011年度は、引き続き、お客様の不満の解消と顧客ニーズを営業施策に反映する活動をさらに推進していきます。

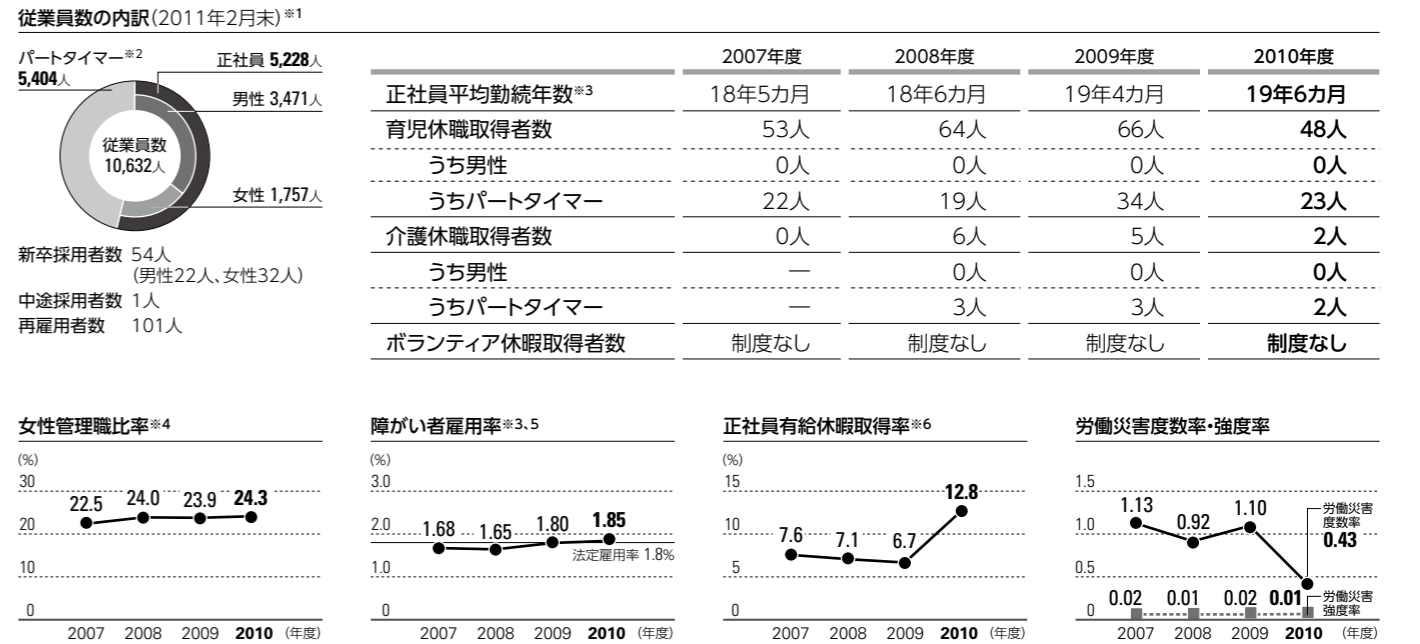


従業員相談受付関連データ

相談に対する迅速な対応と管理者層への研修実施により、全体の発生件数が減少しました。特に「就業・時間外労働」および「ルール・法令違反の疑い」に関しては、実数で半減以上となっており、コンプライアンス研修の成果が表れていると認識しています。2011年度も研修実施などを通じて、良好な労働環境の維持醸成をめざします。



人事関連データ



補足
ロビンソンは含まない。
※1 ロビンソンを含む。
※2 1日8時間換算による月平均人員。
※3 2009年度以降はロビンソンを含む。
※4 役員を除く。
※5 2010年7月の法改正にともない、2010年度から算出方法を変更しました。
※6 2010年度は前年度繰越分を含まない。

主な社会貢献活動

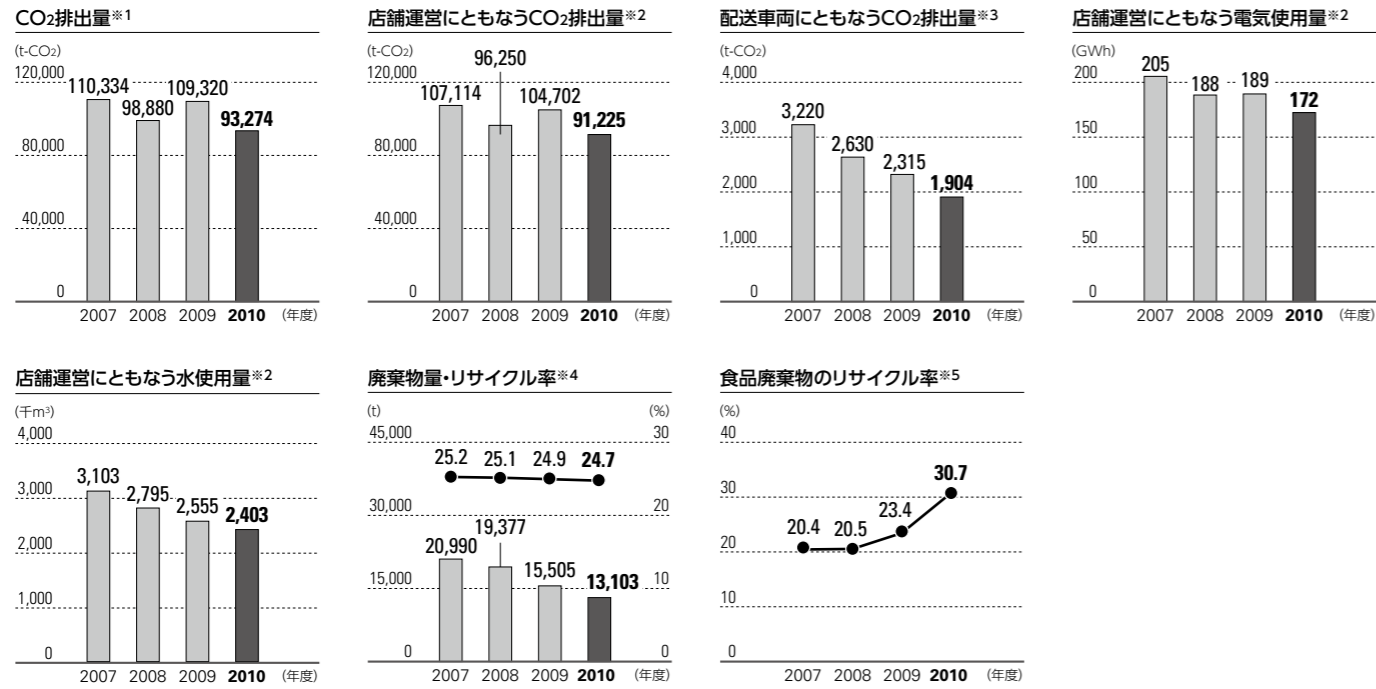
「みんなのやさしさ、つなごう。」をテーマにお客様とともに3つの社会貢献を推進

- ① 盲導犬育成支援活動(P35参照)**
 - 盲導犬や視覚障がい者に関する理解促進に向けたデモンストレーション「盲導犬ふれあいキャンペーン」をそごう・西武全店で年2回ずつ実施。2010年からはロビンソン2店舗でも実施。
 - 各店店頭で募金箱を設置、来店客からの募金総額2,657万5,059円を店舗所在地の7つの盲導犬育成団体に送金。
 - 労使設立の基金に従業員からの募金を組み入れ、1,500万円を全国9つの盲導犬育成団体に寄付。
- ② 途上国への物資支援(P36参照)**
 - お客様からお預かりした不要品を途上国に寄贈。こども靴下取り常設コーナーに加え、臨時に4回実施した下取りキャンペーン、サッカーボールの下取りを実施。合計9万9,900組のお客様から32万4,500点を下取り、ザンビア共和国などの途上国に11万5,900点を寄贈。
- ③ 植樹・育樹活動(P20参照)**
 - 簡易包装数と連動した植樹活動
お客様にお中元・お歳暮で簡易包装にご協力いただくと、4,000件につき1本の植樹・育樹をNPO法人を通じて実施。
 - お客様の植樹・育樹活動のお手伝い
お客様からお申し込みいただいた「グリーンラッピング」80件につき1本の植樹・育樹をNPO法人を通じて実施。

上記の活動などにより、2010年度は1,065本を植樹。活動を開始した2009年度を含めると、これまでに1,565本を植樹し、育てています。

 - オリジナルエコバッグの年間売上金額の5%を環境保全団体(独立行政法人 環境再生保全機構「地球環境基金」)に寄付。2010年度は67万2,000円を寄付。

環境関連データ



補足

※1 2007年度・2008年度は店舗運営と配送車両にともなうエネルギー使用に由来するCO₂排出量(デニーズ単体)。2009年度以降は店舗運営(セブン&アイ・フードシステムズ)・本部と配送車両(デニーズ単体)にともなうエネルギー使用に由来するCO₂排出量。

※2 2007年度・2008年度はデニーズ単体の数値。

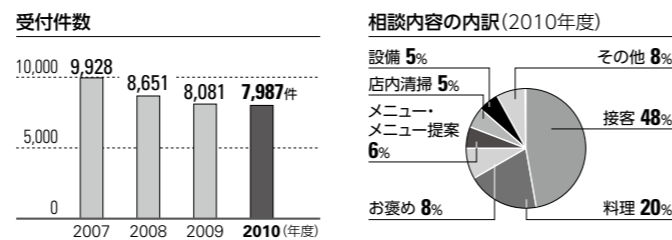
※3 デニーズ単体の数値。

※4 2007年度はデニーズ単体の数値。

※5 2008年度以降は「食品リサイクル法」の計算方法を用いて算出。2007年度はデニーズ単体の数値。なお、2009年度以降のCO₂排出量は、「セブン&アイHLDGS.グループ共通CO₂排出量算定マニュアル」に沿って算出しています。これにともない、燃料種類ごとのCO₂排出係数を2008年度以前とは一部変更しています。

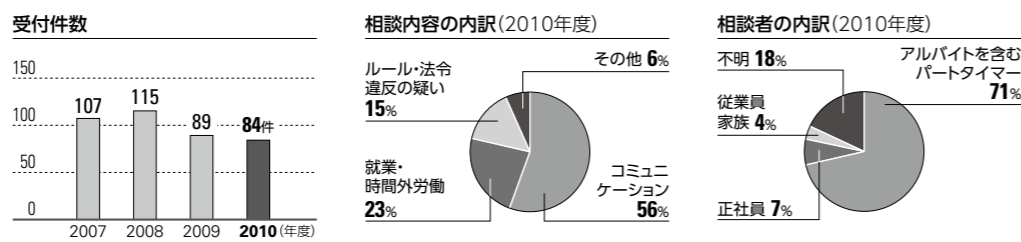
お客様相談受付関連データ

2010年度は、苦情発生率の高い店舗を優先に、「店長サービス研修」を実施し、苦情削減に努めました。2011年度も、お客様からのご提案や苦情などを細分化し、細かな対応をすることと、苦情件数が多い店舗の店長に対するサービス研修を継続して実施します。

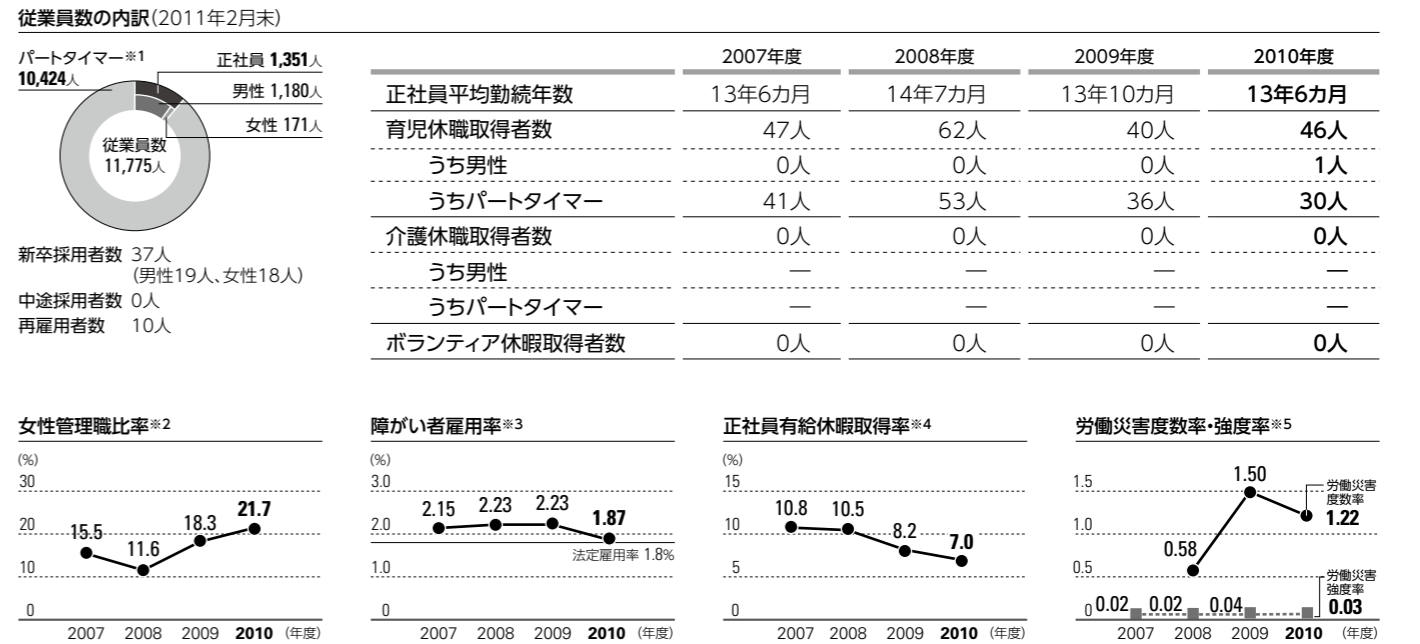


従業員相談受付関連データ

2010年度の通報件数は前年比95%となり、情報管理委員会、FT委員会、人事部と連動して問題対応を図りました。月次レポート、四半期ごとの企業行動委員会の開催で情報共有を行いました。2011年度は、「セブン&アイHLDGS.企業行動指針」の改訂にともなう「ガイドライン」の見直しとその周知徹底を促進します。また、通報傾向の高い分野におけるコンプライアンス教育の深耕を図り、問題解決に取り組めます。



人事関連データ



補足

※1 1日8時間換算による月平均人員。

※2 役員を除く。

※3 年度の数値は翌年度の6月1日現在の数値。セブン&アイHLDGS.、テルベ(重度障がい者が働く特例子会社)、セブンイレブン・ジャパン、イトーヨーカドー、セブン&アイ・フードシステムズ5社によるグループ雇用率を適用。2010年7月の法改正にともない、2010年度から算出方法を変更しました。

※4 前年度繰越分は含まない。2007年度はデニーズ単体の数値。

※5 労働災害度数率は2008~2010年度の数値のみ。

主な社会貢献活動

- 「TABLE FOR TWO」アフリカに届け熱いエールとあったかランチ!!キャンペーンに参加(P36参照)
NPO法人 TABLE FOR TWO Internationalの活動に賛同し、キャンペーンに参加。約1カ月のキャンペーン期間で、169万215円を寄付。
- 就労体験学習の積極的な受け入れ
店舗での接客、清掃、調理補助など就労体験を通して、「実社会における勤労」を学んでいただく場として、積極的に受け入れを実施。2010年度は151店舗で423人を受け入れ、延べ345日実施。
- 地方・地域の「子育て支援」への協力
お子様連れのお客様に、割引や無料サービスなどの特典を設定。2011年2月末現在、5地域112店舗が参加。
- すこやかな食生活への活動援助などを目的とする団体への店頭募金寄付
(社)日本フードサービス協会「ジェフ愛の募金」、日本赤十字社(東京支部)、WFP国連世界食糧計画に計200万円を寄付。
- 「信州食育発信 3つの星レストラン」に参加(P33参照)
長野県が2010年6月から「健康づくり」「食文化の継承」「環境への配慮」に総合的に取り組む「信州食育発信 3つの星レストラン」に、長野県内のデニーズ10店舗およびファミール4店舗が参加。

取り組み課題に対する「2010年度の実績」と「2011年度の目標」

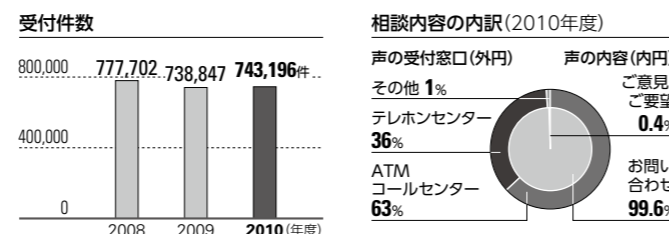
課題	2010年度の実績	2011年度の目標
環境負荷の低減		
エネルギー効率の向上と再生可能エネルギーの導入	● 第3世代ATM(従来機と比較して48%省電力)の開発、206台導入 ● 現金カセットを増やし紙幣の容量を増やすことで、現金警送回数を削減 ● セブン-イレブンの店頭で設置している「銀行告知看板」を305店でLEDに交換	● 第3世代ATMへの入れ替え ● 7月～9月に、ATM1台当たりの電力使用量を前年度比15%削減 ● 7月～9月に、オフィスでの電力使用量を前年度比20%削減
廃棄物の削減と循環型社会の構築	● OA用紙発注量を11%削減 ● 分別リールの徹底	● リサイクルペーパーの継続採用 ● グリーン購入比率の向上
生物多様性への対応	● 従業員とその家族を対象とした富士山麓の森での清掃活動の実施	● 従業員とその家族を対象とした富士山麓の森での清掃活動の継続実施
環境に配慮した商品の提供	● 第3世代ATMを開発、導入を開始。従来機に比べ48%消費電力を削減 ● 金融犯罪撲滅のための警察への捜査協力が48,761件	● 第3世代ATMを本格的に入れ替え ● 年2回の環境研修を継続実施
従業員への意識啓発	● セブン&アイグループの従業員を対象とした省エネキャンペーンへの参加	● インtranetなどを活用した環境情報を継続発信
安全・安心な商品・サービスの提供		
商品とサービスの品質・安全性の確保	● セキュリティやトラブル対応を強化した第3世代ATMの開発・導入 ● ATMの画面表示文字にユニバーサルフォントを採用 ● 海外送金サービス開始	● ATMの安定稼働に向けた取り組みを継続 ● 東日本大震災時のBCMとBCPを検証し、見直しをする ● ATMでの海外送金サービスを開始
安心して利用できる店舗・設備の整備	● 「金融犯罪対策室」を「部」に変更 ● 金融犯罪撲滅のための警察への捜査協力が48,761件	● 金融犯罪撲滅に向け、引き続き警察と連携 ● マネー・ローンダリング対策を通じた金融犯罪撲滅へ引き続き貢献
お客様の声への誠実な対応(体制)	● お客様対応向上のため、パートナー企業と合同研修を開催	● CS(お客様満足)の新しい発見をめざすディスカバリーミーティング会議の本格化
地域社会との共生		
育児・高齢者支援など	● 読み聞かせ絵本「ポノロン」の配布 ● 当社店舗での読み聞かせ会の実施	● 読み聞かせ絵本「ポノロン」の継続配布 ● 読み聞かせ会の継続実施 ● ポノロンキャッシュカードの発行枚数に応じて子ども関連施設に絵本を寄贈
地域活性化への協力	● ATM画面を使った公共性のある情報の発信(選挙告示や納税告知など) ● 「ちよだ企業ボランティア連絡会」「ちよだボランティアクラブ」への登録 ボランティア活動人数14人、参加合計時間は65時間	● 社員のボランティア活動機会の継続提供
災害時の支援	● BCP(業務継続計画)の研修を全従業員に年2回実施 ● BCPに基づき実地訓練を実施 ● 災害義援金募金の実施(中国青海省地震、新燃岳噴火、ニュージーランド地震、東日本大震災)	● ATMの安定稼働の継続 ● 移動型ATMで、被災地での現金ニーズに対応
地域防犯対策	● 「金融犯罪対策室」を「部」に変更 ● 金融犯罪撲滅のための警察への捜査協力が48,761件	● 金融犯罪撲滅に向け、引き続き警察と連携
働きがいのある職場づくり		
能力向上支援	● 2008年から実施しているビジネススクールへの社員派遣 ● 資格取得補助制度の新設 ● 部門、職責に応じた研修の拡充	● 外国語でコミュニケーションがとれる人材の育成
ワークライフバランスの実現	● お子様「職場参観日」の実施 ● 休暇の取得が絶対となるよう、あらかじめ休む日の計画を立てる	● ワークライフバランスの継続支援 ● 男性の育児休暇取得を促進 ● 7月21日～8月31日までサマータイム制の導入
多様な人材の活用	● グループの特例子会社「テルベ」への視察や講習等で、テルベ担当者との交流 ● 定年後の再雇用の継続実施(2010年度嘱託移行者9人、年度末在籍者29人)	● パートタイマーと派遣スタッフの継続採用 ● 障がい者法定雇用率の維持
労働安全衛生への配慮	● 定期健康診断の受診率が100% ● 産業医・保健師による面接指導 ● カウンセリングなどのメンタルヘルス対策を実施	● 外部医療機関との連携によりメンタルヘルス問題への対応を強化 ● 産業医・保健師による面接指導の継続

環境関連データ

	2008年度	2009年度	2010年度
OA用紙発注量	7,622,225枚	8,079,700枚	7,151,900枚
コピー使用量(A4サイズ換算)	3,552,800枚	3,165,604枚	2,568,123枚

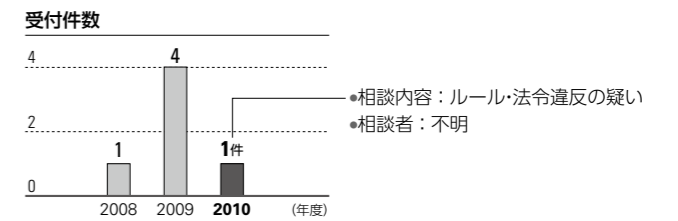
お客様相談受付関連データ

2010年度は、お客様満足度向上の追求のため、お客様の声の分析結果を各種検討会などを通じて関連部署と情報共有をし「お客様の声の具現化」を推進しました。またお客様対応力向上のためにコールセンター・テレホンセンター部門と有人店舗とで対応研修を実施。センターへの見学希望者への対応もしており、外部企業・団体との交流を行いました。2011年度もこうした施策を継続して行い、「お客様満足度の向上」「CSマインドの醸成」を行ってまいります。



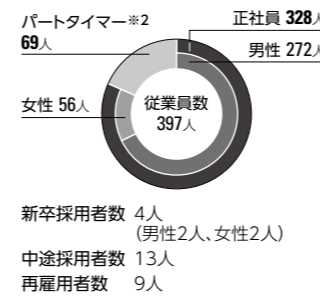
従業員相談受付関連データ

従業員にハラスメントに関する正しい理解を浸透させるとともに、潜在するリスクに対応するため「ハラスメントの未然防止」を2010年度のコンプライアンス・プログラムの重点取組項目として設定。各種コンプライアンス研修を上期に実施しました。また、その後もコンプライアンス関連研修内にて「コンプライアンス相談制度」についての告知を継続実施。2011年度も継続して制度の告知をしていきます。

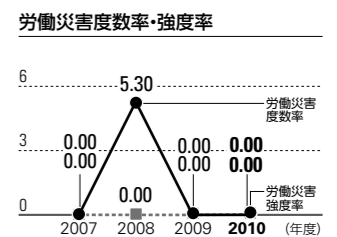
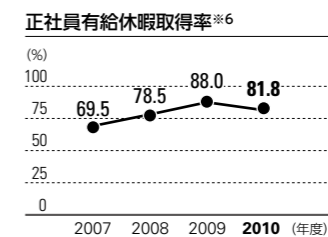
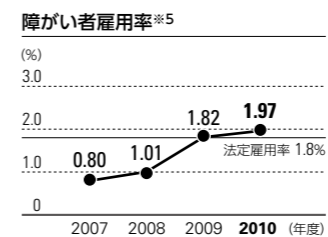
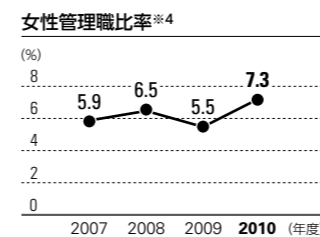


人事関連データ

従業員数の内訳^{※1}(2011年3月末)



	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
正社員平均勤続年数 ^{※3}	2年6か月	3年4か月	3年10か月	4年6か月
育児休暇取得者数	1人	4人	2人	6人
うち男性	1人	1人	0人	0人
うちパートタイマー	0人	0人	0人	0人
介護休暇取得者数	0人	0人	0人	4人
うち男性	—	—	—	2人
うちパートタイマー	0人	0人	0人	2人
ボランティア休暇取得者数	制度なし	制度なし	制度なし	制度なし



補足

※1 ほかに契約社員と嘱託社員がいます。 ※2 1日8時間換算による月平均人員。 ※3 会社設立は2001年。 ※4 役員を除く。
※5 2010年7月の法改正にともない、2010年度から算出方法を変更しました。 ※6 前年度繰越分は含まない。

主な社会貢献活動

- 読み聞かせ絵本「森の戦士 ポノロン」への協賛(P35参照)
2005年6月に開始し、隔月で約100万部を発行
読み聞かせによる親子のコミュニケーションの促進を目的に絵本の発行に協賛。全国のセブン-イレブン、デニーズ、ファミリー、セブン銀行出張所などで配布。絵本の企画として、子どもを対象にした絵画コンクールの開催や、写真募集を実施し、読者とのコミュニケーションを図っています。
- 読み聞かせ会の開催(P35参照)
2008年から年1回活動。
2010年度は従業員15人がスタッフとして活動し、約400組の親子が参加。
当社出張所(6店)での大型絵本の読み聞かせと手遊びも実施。
- 従業員による地域ボランティア活動
2010年9月に、千代田区にオフィスのある企業が連携して社会貢献活動を行う「ちよだ企業ボランティア連絡会」に会社として入会。そのほかにも、従業員が個人でボランティア活動をする「ちよだボランティアクラブ」への参加を従業員に奨励。毎月、ボランティア情報を従業員に提供。
2010年度この2つに14人が参加し、合計65時間活動。
- 災害救援金募金(P33参照)
- 「視覚障がい者向け音声ガイダンス知って!広めて!キャンペーン」の実施(P35参照)